花伝書

特別
チ12
3666
12

子12
3666
12

〈2001-291〉

先祖古の系、古形世巻小ちるを
凡能絵ゆゑ〳〵ものまんの昔人は
分一升いまし光阿弥と分一よ好ま
博奕大酒三重戒の古人おかり
藝古は法よりまし浄徹はあれ風
姿花伝り初めて古方七歳を
りゆてゝもめりとゆゆの能北
きいこかのゝ法芸物は自然と多
小てに將ゝる風神あるゝ
意ゝゝきのゝ意曲ゝは
いまゝ所ゝよりもふとゝ
いゝきんをまをて学のまを

観世文庫

せるはしのこのしたのくゆ
をゆのゝ次あまりとふいくい
さしまは八月ゝ廿八日をゝ
あのてはふものくさくなわらち
はをゝ為て張ハとまる為利
ゝ高曲うこきまりなとなく
てハせる次屋ゝはさのこのの
まのたらしをゝくともをゝへ
まゝきなりちを屋為のさる
かくるハ川のゝはこ書に書
乃時ふのようゝ母をとるふよ持
ゝん風神まをゝへ

十二三歳

一さの年はちすれハやゝ
ゝ為も祝よりかゝと張もうち
はくこちを為目ハ次第ゝよ為数
をもわゝゆゝ川高張ハ
何をゝふるまをゝ出云なり
こを自主為りこはあまりはハ
月ふもまをハかゝれをまをハよ
くゝ花めゝくるわりこは申
楽ハさのここあるふ為ます
為をすをゝはゝ次前屋
仙合を張もめゝをゝなち

唯法師がなりぬまし行てしるも
ようなへしりことらいしるとしのこと
もとよりなりはなりふかわるるべき
去りしりしけ花は海とれとかよは
ひのしるしの時はのとなかちはまし
けれはのけいこをへてしやとき
かりさるりとよ一切の能のこめ
よかるまもしし能和とれあき
こそろと花よあてしわさをもた
しやうに音曲をもみなよみさい
くとはいろ能とも色を宣て
ろまりして能とたとへ

十七八業

けしはいあるとの事をして和とれ能
一先花かりとぬまはは第一の花をを
ゆしこうたるなるとれかりとと
ちをくくるかりわぬまをう
しかの諸曲とるる物もわし
けるきをきとんぬるまをの
きとや波色返面とをなも
けしの和とをいたるへはとこを
るとるるうまをかりとみを
して内ようとのくかん
祝るとて一切乃さいてなるとと

をうしかひして能をすてんか
外ハ藝古ある人の次たこゝろ
ぬきは其まゝ能ならぬこゝろ
悪くて何よりあるふるもの
わるきをもひて用ひ拙
かさのこかくも)ハ自分なりと色々
拙なりと又ハ忘れもせんとおもふ

二十四番業

一ひとつとして一切の拙を能さるまる
ゝゝ能なりとも拙ハけいこの
さうしなりとこゝろもとてよかを
つとめるしるさまる時ハ
されハひとつの第能のつとめ
ハ能なりとハ二ハ時ハ時ふるまま
ハなりと年ざうわるしの藝能
成就すれとこゝろじ去程よ上手
いてもしるとて人も見よらる
なりとと名人(なるもしも)
庭の花よりゝゝてたちあい
階屋ハ一旦ゝ時の人もわりい
あけぬ上手と思ひこむ
なりかゝとゝすゝみ
見もまの実れ花よりゝ次
年のさうりとみる人の一旦心の

ちゝき花なれども実の開きて
もてあそびけるさくらの花ろ
物心とやてろかなるをきゝわたる
やうなるのわりしてくや申
樂ふうてゝろるさんせをいと仕
りゝろ彩色をすろろ
ゆきまゝきまゝかりたるゝは
人もわるゝ人ものらるもきれ
一旦ちゝき花なれと思ひ
さとてゝなゝ物まゝ
宮あるを思たらん人なまれ
こゝふゝしてはけのこゝやまゝ

まゝ〳〵さま〳〵の時ふの花と申し
世ふるゝろこゝはなの実の花
の行とをさろる心なりは人と
ひゝふゝのろふまゝのゝやて花
乃うもをもろ初ゝと下
ゝひゝろのまゝなる一かゝまて
我位のりをすゝ心なゝは
きりゝ世ふゝ一ゝろ位ろ
ゝゝのゝとゝりゝゝりゝろる
位の花もゝまゝる也ゝ宮ゝて

三十四ノ家

一ひゝろの徳さろ世ゝまゝるゝ

すてけるこゝろをさとりて
極楽よりわれ（ハ）来て天下ふ
ゆるさる（る）ゝを持へしゝ
けり将天下のゆるさる（る）ハ右之
為也ふ所ふ
ゆるさるゝとも
花をきさめ
玄猪よ
さうふ
けり天下の
能をきさめ
家すてゝ

ゆるされ（る）ハ三千日めすての比
ふ所の事也
ゆるされを持とゝ
るゝとハ是へ
をけしもへし

ひきさめけ
とゝ（る）
ハゝ
ゝ
ゆるさる

ゆるされ（る）ハ天下のゆるさる（る）
ゝ
ゝ
ゆるさる

四十四五年

一けしよりと能のをもて語へした
ゝし天下よりゆるさる（る）能り
浮法をゝ
すきさき乃
能ハさうゝ
年しけ（る）ハ
月のゝ

ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]表男はさ[illegible]ひすき
[illegible]ひさ面の申樂年を
てゆみ[illegible]ものかすり子の程よひ
一方はひ[illegible]りけ[illegible]ちとはさのを
こもりあるふ[illegible]ものはとまりき
ひとを方似合る神をやと
[illegible]はまをわかてはきの仕まよ
花とりをせあひらしてする
くとをへ[illegible]たらへはわきの後
あ[illegible]んは[illegible]ものしなくこ面
る沙をとる[illegible]き弦をはを面き
せあ[illegible]てしひ月は花な

若は[illegible]をせさ[illegible]をとるこう
海とは花をてかをれるも八十
りくまて先は[illegible]を花をおなる
仕をあ[illegible]は[illegible]十わ[illegible]小天下の[illegible]を
を時は[illegible]へ[illegible]ひ天下のゆる
さまを[illegible]るこて[illegible]たれの
工夫はとに我[illegible]を知は[illegible]をれ
[illegible]きの[illegible]をたるこさの
ふ分をくてきかの[illegible]ゆへ
き能をすものきかりかれな
こるを四[illegible]ひらの人のいかへ

一ひぜんより小野へ行とて、ねぶかしてい
ほとりにはるもの〻藤もさく
姿にはなる馬ゆたかなるふとり手本
ありさまとかくまことに物ゆ
ん能をなすに小野殿せく意思
尺とくふとくかくとも花のこ
ろへ〻元文元年
二月十九日より元年
三月の廿日強盛の国清水の茶
まて法樂はつまり吉日申
ふてに花やうすてんの下
一日よりひぜん〻なり元吉ろ

物ゆへにハ初ハゆつりてやしき
ところをとくくるゆ給てせ
かもをるそいやまの小ろ
なり是ゆとふ浄るもなるゆ
ゆ〻小板ふまてくるく花ふ
なるふまて色ちてゆつ〻
色まのあるうる花貴ゆ物と
花の語称なり利

一
うしをゆる事先ひい
人の口はきゝハねあひ小師通
たく御よをうひかく人
ひまくうるのなり言和小

いまゝ合点ゆきゝかねる所あり師匠
乃うゝしゝを原まきとうる曲）をふ
かく似せるせなるゝ人のたくれ
けゝゝゝ字帝のうゝしゝまきる曲）
師匠ゝゝんていゝすゝたれよ
ゝゝゝふゝをゝゝをゝとゝゝぬゝの
なりひこうゝゝけけ彩よゝまゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝくうゝゝゝるものやゝゝゝ
ゝゝのうゝしのすゝけゝきゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

立昌のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝしのゝゝをかゝくゝの曲をゝゝて
みゝようゝけゝをゝうゝくゝけく
ゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つけてみゝをわつゝまゝ事みゝ
ゝゝゝくゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝ曲のゝけけやゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きつねハ只今の分をとりて
ゑしのくるせとなる久字ふりを
はなれてとをとゝ小ゑの曲小
似合るかゝ分とよびなるなり
ふしうまうゑ久字なうたう
曲ハいせかすきいきも音も
和のくもれてきくとゝ同
しゑ字なもゑ好ゑ
ゆりひやう別ひかりと和ゑ
いろくゑをわとれて曲を音
曲をとりて何よをとれ何よをとれ
和よ法ゑれとり（又強をゆ

第二先ゑ字をわゆふまゑ
ふをきゝもるまゑ浪よ曲を
いろ法事ゑ後こゑ乃位を知る
事を法こゑをけ法をけ拍
ふハ神中法へわるゑ事所
要なり

一こゑを法ゑ事聲ゑもゑ耐
とうかくとゑのくるわゑ
ゆふふも法ゑのゑる好よ薬を
のむへしこゑこゑの強るたゝ
ゑこゑ強をつゑ事ゑの
しまふゑへしゑ字ゑるもよ

弓へ横の聲をいたしけ
れば豊乃ゝ心をとゞめて
ゆへ〳〵夢ゝはらいれてすき
ぬをたゞこゝろをひてすき後
あゝへ横四方へもかのゝこゝろ
とあひをんなとゝ雪曉の
もよおしの数をはこいてい
るまうのもうへ〳〵すくはふ
へ〳〵てゝゝ横の夢ゝをい
曉を夢ゝつゝれてこゝろをし
つゝておさめてゝをりんはな
ゆへ〳〵夢ゝのひきゝ待

をしなゝはなはてゝ
はなはすはしゝ曲新めてゝ
ゝくゝひあゝまゝ又地こゝろ曲
新三月四月強おきゝ月ゝ曲
てゝゝらひ三つゝたくゝひさて
何ゝても食をれと更へ〳〵さゝく
ゝへはゝひゝ聲ゝへゝくゝものゝ利
食をゝもゝふも秘事なゝと又十日
ゝゝはなはて〳〵つゝゝへゝこゝろかゝる
ゝゝかゝゝと時夢をはゝひねき
ゝへゝ強夢ゝゝゝゝゝの一枕ゝ
とゝゝ支百日ゝ三十日是をゝゝ

とうとさはみのうちやかなり
一きいこの時はくこうふいまもる
るゆゆ一ゆ所なりとたゝあん
ゆゆ二ゆそのまこうよたなな
しへゝゆ三ゆ所をかもしく
ゆきやうゆこうかくへゝやこゑ
のたきいやゝきまゆなわな
みゆゆ信を入まゝ所ゆうとゑ
ゆゆゆそをゆ身はくこもこゝろ
きりのなりゆ所はゆきこの事
うゑいのゆうとりゆゆりゆて
うくひきくゆゑへゝたくゝいの

きさくゝゆ所へゝうきゆは
かゝらゆゆもゆきゆゆきゆゆゆ
ゆゝくゝいやゝきゆゆなりきゆは
こゝろゆきくゝなりかゝゆゝく
いゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ
うゝゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
たゝへゝゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
りへゝゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
んゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

いたくへ行ふるすてへ入りよ
ほとあわらぬさ浦くへ入り必
ずまもきせ物別なのまへ乃
を曲乃まへの曲とてをとうん
まへるはを小仙る地をとを
きをこのを作うとをおりて
花の心を越すすへしまを
うりをとうんをとうてをのまへ
の心をきをこをすを色しを花
をうちをけへををあきを
しらをのいせい見ありてかん
あふ物やを秘事をく大いを

きをこを法を敷をよをを決いを法あ
なををををまをかきをを法社心得
諸社会をりわをうへしを法敷乃
巻小ををををを何を
一物をて法花会乃花会を乃心をち
きいこをいれをを云男をを法をを
法を諸花会のををりをを
一芸年ををををを花会乃心をち
十七八のををまををはいをををく
花の法をを心社小仙へ二十
四を三十四をの四はいををを花の
さをりをするをををへを色し

四十四五年まで花のさうすきいやしく色くるひる心りりしくところ〳〵よむものおほかるなかにして秘伝とも〳〵五十に成ぬ六十ほどの人〳〵二十に成ぬ人〳〵わゝもやたいきのことをとゝのへこゝやさの時ふかちゝもるり藝のうきもあるくなりさほかくほかはいるもわゝやきの花やうのほかんそてハ藝わゝきほかのまいるもきこえ人〳〵ねのなりち六十すき術藝計敢まへ〳〵れるをすて

一

〳〵てセ十ますても藝をまれハわゝきほかのわりえまてうるのねひとゝ迄〳〵心得へ〳〵

一弟子一者ハ伝授と〳〵〳〵よまてやう〳〵伝授ゝ〳〵るほかこ者ハ所なりとをもをもさて名のたゝ方なりとたる得伝授の位とこあるかれハ法こをわりてを〳〵〳〵師匠ハ法する者ハ秘事也一者ハ百人ゝ〳〵〳〵八十方ハ全〳〵て〳〵〳〵ことと退屈〳〵この

[illegible]わたる[illegible]ねせけいの付形心
板二三者なるこてよ利 [illegible]
ゆてまくを[illegible]
と[illegible]

一 [illegible]

せよ中二[illegible]
三[illegible]
とわりえさせよ中[illegible]
知せよとく中[illegible]
[illegible]
つくなりへ[illegible]
[illegible]

いねねや[illegible]
[illegible]
要なり利

一 [illegible]
[illegible]
小かの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人ふたりん敵入事よ入てしは
ねかなわれのつきよりをかをも
去度なるこゝろをなをとゝへし
けるこゝわらく程うれしとやゝ
ひとるとなるゝるねやさてめ浪ふ
あをしあけてゝるさあら位を
けるゝへしまつ〳〵方の境界
けいしこゝあ初いをを何もも
一度よあをゝ〳〵ふうもしかゝを
てけるこゝ何ゝぬありみわゝく
あをゝ〳〵ふくせ必なるなを
らすゝ人合の時ふ形変せ

一左敵ゝ〳〵ゆゝる事見も方敵を
国示ゝ先ゝゝめ二三者程えふ
うゝいよゝ何をかをきゝてゝら
ゝゝゝさせいなく時ふよゝゝの
おやゝかまゝとなゝゝ程ゝ後
けゝゝゝと正ゝ去ゝよゝをを
なをゝゝゝくゝをを正ゝふ
ゝもふひゝれてけいあゝゝぬ
ねせ去後正ゝよをゝゝを
へゝゝゝめ浪ゝゝゝあゝゝゝゝあゝ
さふゝうゝふをゝゝゝゝふ
左敵のかゝをなゝゝねね

湯に切ゆきに成ぬる時は水をかけ
ぬりたる形ゆきにさしかゝるれば色を
とゝゆへ〳〵かゝれの時分に合形を
一 和云をゝへふる事ゝ成ぬ
なる時はいりよもわ〳〵くゝのわ
らひ紙よりをゝへ和ゝさてかゝ
和云とも云へわりえ知形仕る時
あまりとたゝきまぜてゝ
のゝき和云よりを入置き
ゝとまぜへゝ度ゝも手
もゆきくゝりんすきまてとか
時はいりよもわすくなるかまゝ

をゝ引き板よりをんのゝてゝ
おゝきまを入とりの形よ
するまを色ゝよのわさゝ和云の
次もたゝゝ知代
一 よりの和云の事はいよも心乃
ひきゝるゝ時ゝ乳のひゝ
さる時和云をするとゝ薬術藝
の毒なり
一 和云の役者乃外人をハ役なけい
北庭表へよりくゝねゝもの〳〵ゝ
もゝうまゝくゝて和云なゝ
せゝゝの和云よりもの

相伝れんとけんさつ[illegible]
かへとく[illegible]と[illegible]と分れてよそれ
きいこよわりく[illegible]わきまへ[illegible]
はるわきまへて相伝のとよ[illegible]
ものわいうも相伝ひんふ
もふものなりと第一面のう
竜の中なわくとりとけきいこ
ちむれわりゆくふい三人個
ひきくうとれ数を相よう
第ようて相伝をとへ[illegible]の
つくいとへ[illegible]まきま[illegible]と
さ目しとへ方わりえへて

のくゆくきいこへ
一相伝あしのま中人の伝の
りてちもうんへまの人
るくかふれひとまの入
へわたまのこらへのあいみ
しくかふれひとわ長つを相伝
一相さきわ弟ゆることの
まとのこいふる弟とをへは
数すべ又わりてゆすてせ
いのあき弟四をわやいよし伝義
わわきよやゆへしわうこ
ゆうなるわまのひ八せるはまのきこ

一 和名抄に河豚 俗者河豚 [illegible]
[illegible]の毒なりと注解せり
大数小数色々
[illegible]
[illegible]
[illegible]

らくのさんをもとうらへ
ともしてまたをのこをそうもへ
見をいこれ將の法度なるを筆の
まさしあへいこうらうを紙長よ
まさらるかすわ右の法度を宣あ
たり
一次第の紙をとる事三人の紙よ
とるべ次
一紙の仕舞をいこまを小袖をはかお
ゝ由いなるへ又ま將ハ長
そうぬうそもいかるへさ
やうよへ庭ぬ舞と紙とか
たすわ右ぬさきしきまいよ法
とすくるくとき又句ふを
ゝ初ハ初ゝ紙ぬさんはふこ数を
由らるるくるおゝや
一紙長の時紙長ますて由わ毛初
ゝわ紙長ますてまハ河きや
三書程しえてとすと將毛
ゝくをいこ紙長あつをも
ゝ又面をけゝうゝ右と
四本二三書わうえゝてとを面を
けれのわうえゝる紙を長ゝ
て面位えへしまこぬ紙へを

もつぱらにて稽古をつとめるよりは
けつこうなるかぶきの芸能にて
きいこなしかたひとき芸能なるべ
しと

一 稽古をするにはかぶきとゆきしるる
よしきいこみ初心するにはのはて
よきしまかきしれさるるい芸を
このさたたるるとき一のかぶき
まなびたるにはたにんのこころと
するにきいこみを知らるるもの
の芸云初心なるにはかぶきのけ
はしかぶきてしまへし

相撲ふるまひ

なきあるきさまし

一 座敷芸舞乃能てをしも
たまへしわりきかりとあわよく
稽古をしへしたるにはかぶきは
てするふわさいたきよいつとて
芸をすへし座敷すてはこの通
り芸をしへ

一 稽古にいらひてはをいなの人の
よき芸者をあいてのかぶき
すてきものをたらとも見たき
なるようつはあきさ道をすて

一所にあつまる人のわきまえより上手なる
芸をほめ〳〵へんせぬものなり
一秘蔵せきこめあらはすとも一芸
信仰人の又信のまことにれ各余外
多くよりあつまるすかくいはんめて
とへつゝ我成の知恵まて
あきくなりとも
一はなはだ芸能にたよてまへけいこ
なるほどあくとあくとて人の
きゝひゝ流あり乃秘乃恵者
よは能とゆきはへすす芸人今
恵乃しるしを事迄〳〵有更〳〵能
かゝくわきまえすかなるとて一芸
乃乃うをかかるはなたへけいこ
なるとたすきかつをとをなこてきいこ
すへ〳〵
一わきまえのきゝ人の知るをへ人乃能の事
小塩殿政義乃戦場貴紀豊秀乃恵
月夜栄相乃
数芸小〻
一諸恵芸いゝさるはよ海也仕家
るいゝとるすれ乃きの毒也
かゝ乃九あれ一度一芸よし恵芸と

心ゆけ〻人〻は行ゆかぬなりと云はけ共
ゆゑとの付してゝ〻ゆゑ有る物〻絶るは
少加ゑあり き変はるとゝ〻ゆゑ〻ゆゑ
せよくゝてうせねる物〻なるゆゑ
へゝ〻ゆゑ〻ゆゑ足よりてきい
ことをそれをゝゝれをゝゝと思い
へゝとは古人の中絶へら見ゝゝ絶
何事なる人〻乃中なれ事よ
行ゝ〻ゆゑ絶ゝゝゝゝゝゝ
かれの〻物面白ゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
もゝゝゝ藝ゝゝゝゝゝ

小倉ていれとつゝと思ひ〻〻とは絶ゝ
それ和不をゝゝゝとゝゝゝ思ひ〻〻
藝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ足
和ゝの〻ゝ面白ゝゝゝの〻物なり

右和歌乃系ゝ三十ゝ系ゝ巻
小古記ゝ思足ゝゝ絶心得ゝ
和ゝゝゝゝゝ和ゝゝゝゝ
ゝは和ゝゝゝゝゝゝ
藝ゝゝ和ゝゝゝゝゝ
中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ものゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ藝ゝゝゝゝゝゝゝ